

**京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書**

平成 23 年 4 月 22 日

財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長 辻 井 昭 雄 様

京 都 大 学 総 長

松 本 紘

事業区分	平成22年度・大学全体計画事業助成		
事業名	京都大学春秋講義の開催		
成果の概要	「成果の概要」以外に添付する資料 無 有()		
会計報告	事業に要した経費総額	2,392,360円	
	うち当財団からの助成額	1,600,000円	
	その他の資金の出所	(機関や資金の名称) 京都大学 大学運営費	
	経費の内訳と助成金の使途について		
	費 目	金 額 (円)	財団助成充当額 (円)
	印刷製本費	569,531	569,531
	通信運搬費	214,032	214,032
	公告・宣伝費	252,000	252,000
	旅費・謝金	479,840	479,840
	施設使用料	792,360	0
消耗品等	84,597	84,597	
合 計	2,392,360	1,600,000	

成 果 の 概 要

京都大学総長 松本 紘

【京都大学春秋講義の開催】

(総評)

「京都大学春秋講義(春季・秋季)」は、「京都大学教育研究振興財団」の後援を得て、京都大学における学術研究活動の中で培われてきた知的資産について、広く学内外の人々との共有を図ることを目的として昭和63年度より春季及び秋季の2回、京都大学の教員による連続講義(月曜講義、水曜講義)の形態で開催しているものである。

春季、秋季いずれも「月曜講義」は共通のメインテーマを設け、各講師の企画・構成により行い、「水曜講義」は共通テーマを設けず、各講師が時宜を得たテーマにより行っている。

春季の「月曜講義」では、「アジアの中の日本」を共通のメインテーマに、「東アジアの文化・文明論的關係性の転換」「東南アジアはなぜ発展するのか - 「東南アジア共生社会発展モデル」と日本のつきあい方」及び「アジア回帰の日本と世界進出の中国」について3名の講師が講義を行い、「水曜講義」では、「近代日本を創った男・伊藤博文 - 真の改革とは何か」「神雄寺の仏教儀礼 - 木津川市馬場南遺跡の発掘成果から - 」及び「保健医療 - 世界の動向・日本の動向」について3名の講師が講義を行った。

また、秋季の「月曜講義」では、「電子書籍と出版」を共通のメインテーマに、「書物とウェブのメディア論」「電子化の中の大学図書館」及び「電子書籍と著作権法のゆくえ」について3名の講師が講義を行い、「水曜講義」では、「人間の生存に宇宙圏は必要か? - 宇宙太陽発電所SPSと無線電力伝送技術 - 」「深層崩壊の実態と予測」及び「身のまわりの有機化合物：構造、はたらきを知る。つくる!」について3名の講師が講義を行った。各講義終了後には質疑応答の時間を設けており、活発な質問が行われた。

春季講義には「月曜講義」3回、「水曜講義」3回の6回で延べ1,143名、秋季講義には「月曜講義」3回、「水曜講義」3回の6回で延べ976名、合計2,119名の参加者があり、1回当たりの開催について176名の参加者があった。

なお、「月曜講義」については、東京オフィスでの同時中継を行い延べ234名の参加があった。

参加者の意見聴取については、毎回講義終了後にアンケートを実施し、講義テーマや講師の選定、講演会場の設定等今後の企画に生かしている。

また、広報についても、京都市営地下鉄駅構内でのチラシ配架や、講義テーマ、開催場所によってポスター等の送付先を工夫するなど広く市民に周知するよう努めている。

(今後の計画)

平成23年度の計画についても「教育・研究活動を通じた社会との連携協力事業」を更に進める効果が期待できるため、今後とも貴財団からの助成をお願いしたい。